

M3

医療概論 III

シラバス

(コースガイド)

2017 年度入学 第 44 回生
2018 年度編入学 第 18 回生

M3 医療概論Ⅲ－1 コースガイド

Coordinator :前野 哲博

Sub coordinator :高屋敷明由美・春田淳志ほか

1. コースの概要

医療概論Ⅲは以下から構成される。

- 1) 医療概論Ⅲ－1 行動科学/健康教育（健康教育企画実習・地域健康教育実習）（7月8日～17日＋地域での実習）
- 2) 医療概論Ⅲ－2 ケア・コロキウム（チームワーク演習）（12月2日～6日）
- 3) Medical English Terminology（通年）

本ガイドでは、1) 医療概論Ⅲ－1の**行動科学**について記載する。

- 1) 医療概論Ⅲ－1 健康教育（健康教育企画実習・地域健康教育実習）は、6月12日に実施したオリエンテーションにおいて配布した実習書（シラバス補冊）を参照。
- 2) ケア・コロキウムのガイドは、12月2日のオリエンテーションで配布予定。
- 3) Medical English TerminologyはM2 医療概論Ⅱコースガイドを参照（4月実施のM3 学年オリエンテーションで説明済み）

2. 筑波大学卒業時コンピテンシーとの関連（医療概論Ⅲ－1）

・プロフェッショナリズム

豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示すことができる。（レベル1）
指導者のサポートのもとで振り返りを行い、自らの課題を明らかにして、その後に活かすためのプランを挙げることができる。（レベル2）

・コミュニケーション

患者および家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる。模擬患者との面接において、心理社会的背景を考慮し、コミュニケーション技法を活用したコミュニケーションをとることができる。模擬患者に対し、病状をわかりやすく説明した上で、相手の意向を尊重したコミュニケーションができる。（レベル2）
グループ学習において、他職種など立場の異なるグループメンバーを尊重したコミュニケーションをとることができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる各職種の視点や役割の違いを理解できる。（レベル2）

・診療の実践

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を様々な疾患と病態の理解に応用できる。（レベル2）

・医療の社会性

実際の現場で、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。（レベル3）

実際の現場で、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用するよう意識して行動できる。（レベル3）

健康行動に関する理論を活用し、個人・集団を対象とした予防活動を立案できる。（レベル2）

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動を一部実践できる。（レベル3）

・未来開拓力

国内外の文献や書籍を検索し、適切な情報を入手することができる。社会における多様性を認識し、受け入れる姿勢を示すことができる。（レベル2 行動）

学習の場において、明確化した自らの考えをわかりやすく示すことができる。（レベル2）

場に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく、適切にプレゼンテーションができる。（レベル3）

場に応じて教育を実践し、自らの学びを深めることができる。（レベル3）

チーム活動の場において、メンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。（レベル3）

3. 医療概論Ⅲ－1 行動科学の到達目標(コースにおいて学んで欲しいこと)

- ・ Prochaska の行動変容のステージを列挙し、個々のステージの特徴を説明できる。
- ・ 人々の健康の維持・向上に必要なセルフケアに必要な「ヘルスリテラシー」の意義を理解して、その普及にむけて医療者の果たす役割を述べることができる。
- ・ 一人一人の多様な価値観を尊重し、ライフステージを踏まえ各段階に必要なセルフケア支援の計画を立案し、医学生として参加することができる。
- ・ 将来医療者として患者や地域住民の健康の維持・増進に効果的な働きかけを行えるようになるために、健康行動理論に基づき、個々のライフサイクルをふまえた健康を維持向上のためのセルフケア支援についての計画をたて、学生としてその支援に関わることができる。
- ・ 現代の健康格差社会の実態とそれをとりまく健康の社会的な決定要因(SDH: Social Determinants of Health)を説明できる。
- ・ 社会における多様性(価値感、宗教観、性の多様性など)を認識し、広く受け入れることの重要性を理解する。
- ・ 将来医師としてキャリアを重ねる時に必要なセルフケアを行うと同時に、ワークライフバランスをとることの大切さに気づき、そのあり方の多様性をイメージできる。

4. 学習の進め方

講義・演習(夏休み課題を含む)から構成される。医療概論Ⅲオリエンテーションにおいて、M2 行動科学入門で学んだ家族のライフサイクル、ストレス、セルフケアなどについての復習を行う。講義は課題実践のための基礎知識を扱う。コース最終日にセルフケア支援演習1, 2では、課題実践のための具体的な計画と実践するためのブラッシュアップを行う。

課題 身近な人へのセルフケア支援の立案と実践

身近な人(家族、友人など)が健康の維持・増進を行うためのセルフケア支援計画を立て、実際に指導を行う。

16日 4時限自習時間:セルフケア支援事例計画書:ワークシート(2時限終了時に配布)作成、提出。

17日 2-3時限セルフケア支援演習1/2:事例についての討論、16日に作成したワークシート(夏休み課題の計画書)のブラッシュアップ。セルフケア支援演習2では、医療人類学の教員の助言のもとで、ブラッシュアップを行い、夏休みの各自の実践に活用する準備を行う。

課題レポートは、下記の構成で記すこと。

- 1) 対象者について
(ライフステージ、どんな生活をしているか、人生における価値観、あなたとの関係など)
 - 2) 目的(誰を対象に何を目的とした支援を行うか、その目的が対象者にとってどんな意味をもつか)
 - 3) 支援の方法
 - ・ 準備(対象者の関心、行動ステージの分析など)
 - ・ 上記にあわせたセルフケア支援の方法
 - ・ 対象者とのコミュニケーションにおける工夫
 - ・ 効果の測定法(短期、長期)
 - 4) 実践結果
 - 5) 考察
 - 6) 参考文献
 - 7) セルフケア演習で作成したワークシートを巻末に添付する。
- *講義で学んだことに加え、設定したテーマについて、自分で調べたことを実践に取り入れること。

提出 教務前レポートボックスに9月2日(月)17時まで

5. 他の授業科目との関連

・ M2 医療概論Ⅱ行動科学入門で、心と行動のメカニズム、家族のライフサイクル、セルフケアについて学びました。本コースでは更に、他者へのセルフケア支援を行う上で必要な理論を学び、健康教育の実践を学びます。

・M5 総合診療科 CC/医療概論Vにおいて、茨城県内の地域の医療機関において4週間の実習を行い、その中で地域における健康教育を実践する他、住民の多様な価値観や健康の社会的決定要因について現場の中で学びます。

6. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名

前野哲博（総合診療科、地域医療教育学 教授）
 吉本尚（総合診療科、地域総合診療医学 准教授）
 春田淳志（総合診療科、地域医療教育学 准教授）
 山海知子（疫学・予防医学、看護学専攻 准教授）
 高屋敷明由美（総合診療科、地域医療教育学 講師）

7. 教科書・その他の学習リソース

医療の行動科学Ⅰ 医療行動科学のためのミニマムサイコロジー 山田富美雄編 北大路書房
 医療の行動科学Ⅱ 医療行動科学のためのカレント・トピックス 津田 彰編 北大路書房

8. 評価

医療概論Ⅲの単位取得条件：下記1)～3)の全てに合格していること（一つもD評価がないこと）。

- 1) 医療概論Ⅲ－1 行動科学/健康教育（健康教育企画実習・地域健康教育実習）
- 2) 医療概論Ⅲ－2 ケア・コロキウム（チームワーク演習）
- 3) Medical English Terminology

*地域健康教育実習、ケア・コロキウム、Medical English Terminology の評価はそれぞれのガイドを参照。

行動科学の成績は、テスト（7月17日2時限）およびレポート課題の提出状況とその内容で評価する。テストの不合格者は9月に再テストを行い、それに合格する必要がある。（再テスト対象者と日程は、9月初旬に掲示予定）テストへの無断欠席またはレポートの提出がなかった場合はD評価とする。（正当な理由がなくレポートの提出が遅れた場合には、行動科学の成績をD評価になりうる。）

レポートの評価は、セルフケア支援を実施してうまくいったかどうかではなく、

- 1) インストラクションに沿った記載か
 - 2) 講義と演習で学んだことを生かし、対象者の状況などを分析しそれにそった計画をたて実施したか
 - 3) 実施結果を振り返り考察できているか(よかった点と改善点をあげるなど)
- を、評価する。

9. 対応する「医学教育モデル・コアカリキュラム」の項目とそれ以外の学習項目

B-1 社会と医学・医療のうち、 B-1-5 生活習慣とリスク、B-1-6 社会環境・環境と健康、 B-1-7 地域医療・地域保健、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度
 C-5 人の行動と心理に含まれる項目

10. 講義一覧

行動科学入門に関する講義・演習 一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	医療概論Ⅲオリエンテーション	高屋敷明由美	ライフサイクル、行動変容
2	行動科学と行動変容	山海 知子	行動科学、行動変容ステージモデル、健康行動理論
3	臨床研究と地域医療	前野 哲博	地域医療、臨床研究、サンプリング、現場への適用
4	ヘルスリテラシー	稲葉 崇	ヘルスリテラシー、健康信念、ヘルスコミュニケーション

5	医師のワークライフバランス	瀬尾 恵美子	キャリア、ワークライフバランス
6	社会と健康格差	市川 政雄	健康格差社会、健康の社会決定要因、貧困と健康、ソーシャルキャピタル
7	ライフステージにあわせたセルフケア支援	吉本 尚 /高屋敷明由美	ライフステージ、ライフスタイル、セルフケア支援、健康の社会決定要因
8	個人差～ダイバーシティアクセスビリティ	河野禎之（ダイバーシティアクセスビリティ・キャリアセンター）	多様性、個人差、SOGI/LGBT、アンコンシャスバイアス
9	医師のワークライフバランス	瀬尾 恵美子	キャリア、ワークライフバランス
10	セルフケア支援演習 1（演習）	高屋敷明由美	ヘルスビリーフモデル、ヘルスコミュニケーション、行動変容
11	セルフケア支援演習 2（演習）	木村修平（人文社会学系）/照山絢子（図書館情報メディア系）/春田淳志	社会環境、価値観、行動規範

11. 時間割

	月	火	水	木	金
	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
1	専門外国語/基礎科目	行動科学と行動変容（山海）	専門外国語/基礎科目	臨床研究と地域医療（前野哲）	ヘルスリテラシー（稲葉）
2	医療概論Ⅲオリエンテーション（高屋敷（明））				健康教育企画実習発表会
3					
4	健康教育企画実習	健康教育企画実習	健康教育企画実習	健康教育企画実習	
5-6					編入学試験準備
	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
1	海の日	社会と健康格差（市川）	専門外国語/基礎科目		
2		ライフステージにあわせたセルフケア支援（吉本, 高屋敷）	行動科学テスト（10:10～10:40）		
3		個人差～ダイバーシティアクセスビリティ（河野禎之）	テスト解説・セルフケア支援演習 1（高屋敷（明））（10:55～12:45）	妊娠と分娩試験	
4		自習（課題あり）	セルフケア支援演習 2 木村・照山・春田		
5		医師のワークライフバランス 瀬尾（恵）	予備		